



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

F A O（国際連合食糧農業機関）日本事務所

2009年3月2日

LOJAPR09/05-No. 127

プレスリリース

世界の漁業は気候変動に備える必要がある

FAOの最新「世界漁業養殖業白書」発表される

2009年3月2日、ローマ - 2日発表の新しいFAO報告書は、漁業者及び各国漁業関係当局は、気候変動が世界の漁業に与える影響についてより理解を深め、備える必要があると述べた。

国連機関FAOの最新版世界漁業養殖業白書（SOFIA）によれば、既存の責任ある漁業の慣行は、より広範に実施される必要があり、現行の管理計画は気候変動に対処するための戦略を織り込むよう拡充されるべきである。

「既に示されていないが必ずしも実行されていない最良の慣行は、気候変動に対してより強靱な漁業を実現するための明確で確立された手段を提供するものだ。」とSOFIAの著者の一人、ケヴァーン・コクレーンは述べた。「したがって、漁業者や漁業関係当局へのメッセージは、はっきりしている：例えばFAOの責任ある漁業のための行動規範に含まれているような現存する最良の慣行に沿って行動しよう。そうすれば、気候変動の影響緩和に向けて重要な前進を遂げたことになる。」

脆弱な食料システムとコミュニティ

気候変動は既に海洋及び淡水における魚種の分布に変化をもたらしている。温水魚種は北極、南極に押しやられており、生息地の大きさや漁業生産性も変化している。

そして、気候変動は生物学的プロセスの季節性に影響を与え、海洋及び淡水の食物網を変え、漁業生産に予測不能な結果をもたらしている。

漁業に大きく依存しているコミュニティでは、地域における魚の入手量の減少は生計の不安定さの増大を意味し、深刻な問題をもたらす。

「多くの漁業では漁業生産能力の上限まで利用がなされている。気候変動が海洋生態系に与えるかもしれない影響のことを考えると、どのようにして漁業が続けられるか心配になってしまう。」とコクレーンは述べた。

漁業と養殖業に依存するコミュニティ、その中でも特に最も脆弱なコミュニティを助けるためには、気候変動への強靱性を強化する緊急の取り組みが必要であると彼は付け加えた。

漁業の二酸化炭素排出

2日の報告書によれば、漁業と養殖業は、漁獲、輸送、加工及び貯蔵を通じて、温室効果ガスの排出に関し、小さいが顕著な役割を担っている。

漁獲漁業における燃料の二酸化炭素（CO2）排出量の平均的な率は、使用される燃料100万トンに対し、二酸化炭素3テラグラム（兆グラム）と推定される。「これは改善可能である。良い漁業管理を行うことによって、大幅に

この部門の燃料効率を向上することができる」とコクレーンは述べた。「過大な漁船能力や過剰な漁獲は、一隻あたりの漁獲量が少なくなることを意味する - これは、燃料効率の低下を意味する - 一方、限られた資源のための競争は、漁師が常にエンジン能力を上げようとしていることを意味し、これもまた効率を低下させることにつながる。」

実際の漁獲操業に比べると、魚穫後の水産物 1 キロあたりの空輸における排出量はかなり高いと **SOFIA** は付け加えた。大陸間の航空貨物は、輸送される 1 キロの魚につき、8.5 キログラムの二酸化炭素を排出する。これは海上輸送に比べ約 3.5 倍であり、漁獲された場所から 400 キロメートル以内で消費される地域の魚の運送に比べると 90 倍以上である。

新しい生産数値

世界の漁業総生産は、2006 年には 1 億 4,360 万トンという最高値に達した（漁獲漁業 9,200 万トン、養殖業 5,170 万トン）。その内、1 億 1,040 万トンは食用に消費され、残りは非食用（畜産用飼料、養殖用魚粉）に利用された。

漁業生産量の増加は、今や食用に消費される魚の全体の 47% になる養殖部門に起因する。漁獲漁業による生産は横ばいで現在の水準から増加はなさそうである。

天然種の状況

FAO が監視している主要商業海洋魚種の 19% が過剰に漁獲され、8% が枯渇し、1% が枯渇から回復しつつあると位置づけられている、と 2 日の報告書は示唆する。

およそ半分（52%）が十分に利用されていて、最大持続生産の限界又は限界に近い漁獲量となっている。

20% の魚種が控えめに開発されているか、又は開発の余地があるという分類に属す。

十分に利用されている魚種の比率が一番高いのは北東大西洋、西インド洋及び北西太平洋である。

SOFIA では過剰生産能力 - 漁船が多すぎることと効率性の高い漁業技術の組み合わせ - が今日漁業に影響を与える主要な問題であると指摘している。

この問題への取り組みの進捗は遅い、と報告書は述べ、「混獲や廃棄の撤廃、底引き網漁業規制、サメ漁業の管理及び不法漁業への取り組みなど、水産業に対する予防的な生態系アプローチを主流化するという面においては限られた進捗しかなかった」としている。

その他の主要所見

SOFIA では開発途上国の漁業及び養殖業の重要性を明確に描き出している。

推定 4,350 万人が専業又は兼業で、漁獲漁業及び養殖業に直接関与している。ほとんど（86%）がアジアに住んでいる。更に 400 万人がこの部門に不定期的に従事している。魚の加工業、流通、関連サービス業の雇用及び直接・間接的に漁業及び養殖業に雇用されている人たちの家族も含めると、5 億人以上の人がこの部門に依存していることになる。

魚は 29 億人以上に対し、平均で少なくとも動物性たんぱく質摂取源の 15% を提供している。魚は、多くの小島嶼国の開発途上国やバングラデシュ、カンボジア、赤道ギニア、仏領ギアナ、ガンビア、ガーナ、インドネシア、シエラレオネなどでは、少なくとも総動物性蛋白質摂取源の 50% を占めている。

漁業における直接雇用及び関連産業での仕事はともに開発途上国にとって重要であり、年間の水産物輸出による収入は 246 億ドルに達している。

世界の動力船の数は合計約 210 万隻に達している。ほとんど（90%）が長さ 12 メートル未満である。約 2 万 3 千隻は積載トン数の大きい「産業化された」船である。これらのうち、数千隻の船の国籍は不明である。この「不明」という分類のものが不法漁業を根絶しようという世界的な努力にもかかわらず、近年増加している。

また、**SOFIA** は、漁業労働の安全性、食用水産物の認証スキーム、海洋遺伝資源、エビ漁業及び天然種の養殖用の種や飼料としての利用に関する章を設けている。

FAO での議論

2 日より、80 カ国以上の代表が FAO のローマ本部に集まり、第 28 回 FAO 漁業委員会（COFI）にて **SOFIA** で問題提起された事項及び FAO の水産・養殖局の事業プログラムについて話し合う。

英文 URL <http://www.fao.org/news/story/en/item/10270/icode/>